



チェックシベツ

教育目標
たくましい身体の子
ねばり強く働く子ども
進んで学ぶ子ども
美しく豊かな思いやりのある子ども

秩父別小学校だより 3月号 ① (平成29年3月10日) 【発行責任者 成田将人】

絵日記<我慢>の勧め ～ 自らの目標を見つけるために

経済協力開発機構（OECD）が行っている学習到達度調査（PISA）では、H12年から3年に1度行われ、H27年の調査で日本の子どもの「読解力」低下が問題視された。ただ本や新聞を読ませればいい、などという単純な話ではない。いま、日本の子どもたちから消えかかっているのは、「自らの目標」ではないか。本や新聞を通して、古今東西の知識と知恵に立ち向かうための原動力が失われている・・・と、安西氏は言う。

さらに、「絵日記」は、「家」づくりをノートの上に再現する行為だ。

土台をつくり、柱を立て、壁をつくり、屋根を載せ・・・。想像力と表現力、言葉をしっかりと組み立てる力が必要で、使えば使うほど豊かになる。だから、ぜひ子どもたちに絵日記を勧めてほしい。

だが、実際に取り組ませようとすると、必ず困ったことが起きる。

多くの子どもが、こう訴えるようだ。

「何を書いたらいいの？ 書くことないよ」

親はじっと我慢。「何を書けばいいの？」と子どもに聞かれても、「何も書くことがなければ、白紙のままでいいよ」と返してほしい。

日付だけが書かれた白紙のページができる。ひょっとしたらその次の日も、またその次の日も、「何を書いたらいいの？」と尋ねてくるかもしれない。

まだまだ我慢。ここで、「こんなことを書いたら？」「今日はこういうことをしたでしょ」と助け舟を出したら、元の木阿弥だ。

どれほど白紙のページが続いても見守る。親の胆力が試されていると覚悟して、口出しは厳に慎んでほしい。「何も書くことがない」。

白紙の絵日記を前に、子どもが毎日、困っている。

自分の目標を探そうとしている。

家と学校、塾以外に、親や先生の干渉を受けず、自分で何かを考え、自分で決めて実行できる居場所はあるのだろうか。たとえ家や学校であっても、「ああしなさい」「こうしなさい」と指示を受けることのない、何をするのも自由、何をしないのもまた自由という時間があればいい。

そうした経験が、書きたい「何か」を醸成するように思う。

その姿に、私たち大人はどれほど耐えられるだろうか

(YOMIURI ONLINE 中央教育審議会会長 安西祐一郎氏のインタビューから)

裏面へ →

記事の紹介が表面を占めてしまいました。

記事の中に、「何もしない時間をつくる。」とありました。

そう言えば、私は子供の頃、学校から帰って、家の近くの広場に寝転がり、雲を眺めるのが好きでした。今の子供たちは、学校から帰っても忙しい時間を過ごしている子が多いです。私たち大人も、子供がやる事が決まっている方が安心できるのかもしれない。

子供に目標を決めさせるのに、大人が我慢する・・・学校では様々な場面で子供たちに目標を決めさせます。その設定期限は決まっていて、決めるまで待っていたり、ましてや白紙でもいいよ、なんてことはありません・・・。

「我慢」の反対の意味を考えてみます。

「我慢」の反意語は「寛容」です。

「日記を書けない子に我慢する。」ということは、「こうしたらいいよ」という寛容の態度ではだめだということです。

「我慢」は、「意図を持って見守る」ということなのでしょうね。

ちなみに、我慢と良く似た「放置」の反対語は「規制」です。

最近の子供たちを取り巻く環境は、規制・放置・寛容に当てはまることが多いですが、「我慢」に見守られていることって、少ないのかもしれない。

大人が「我慢」するためには、子供たちに付けさせたい力をしっかり見極めなければなりません。

「我慢する」って、奥が深いです。

学校現場でも同じです。

子供の想像力と表現力を奪わない関わり方をしたいと思います。



以下の記事は、「がまん」つながり・・・ということで紹介します。

「小学校で排便しない」5割 ～ 教育情報ポータルサイト eduon より」

- 小学生の2人に1人が学校のトイレで排便しないことがNPO法人日本トイレ研究所（東京）の調査で明らかになった。

<理由を複数回答で聞いたところ>

- 「友達に知られたくない」（55.9%）が最も多かった。

<全国の小学生の保護者 4833 人に3月、子供同席のインターネット調査の結果>

<普段、学校のトイレで排便するかどうか尋ねたところ>

- 「ほとんどしない」が 35.3%

- 「まったくしない」が 14.4%で、

◎ 合わせて「しない」子供が 49.7%だった。「ときどきする」は 45.7%、「よくする」は 4.6%。

- 確かに、自分が子供の頃、学校のトイレで排便するのを我慢していた記憶があります。

- 結構神経質な子供だったので、トイレを意識しすぎると、具合が悪くなったりしていました。

- 音やにおいが出てしまうので、トイレに他の人がいるとしくいのはわかります。

- 排便を笑ったり、馬鹿にしたり、するほうの意識を変えていかなければなりません・・・。

